

Title	彙報
Author(s)	
Citation	懷德. 1978, 48, p. 59-60
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90570
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

彙報

(懷徳堂記念会)

○記念祭典 昭和五十二年十月二十二日(土) 大阪大学松下会館四階講堂に於て、午後一時二十分より祭典執行。終つて大阪大学教授黒田俊雄氏の「神道の世俗性と宗教性」と題する記念講演があつた。

○秋季講座 昭和五十二年十月三十一日より十一月五日まで、本会及び大阪大学文学部主催、朝日新聞社後援で、大阪大学松下会館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五十五回懷徳堂講座開講、聴講者延三百七十二人。

演題と講師

古代における人間像の誕生

帝塚山学院大学教授 吉井 巖氏

伊勢物語の虚構の方法

大阪女子大学教授 片桐 洋一氏

平安末期の物語二種

京都大学教授 阪倉 篤義氏

曾我物語と義経記

立命館大学教授 福田 晃氏

夏目漱石の「門」

大阪大学教授 川口 朗氏

西鶴「日本永代蔵」瑣々談

京都女子大学教授 村田 穆氏

○内藤乾吉氏(事業運営委員) 昭和五十三年三月二十三日逝去。謹んで弔意を表す。

○昭和五十三年三月三十一日 理事岸畑豊氏退任。
○昭和五十三年四月一日 岡部健彦氏(大阪大学文学部長)理事就任。

○春季講座 昭和五十三年五月二十二日より二十七日まで、本会及び大阪大学文学部主催、朝日新聞社後援で、大阪大学松下会館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五十六回懷徳堂講座開講、聴講者延二百七十四人。

演題と講師

荀子の解釈について

三重大学教授 竹岡 八雄氏

祝允明と「罪知録」

大阪外大教授 間野 潜龍氏

現代中国の歴史性

京都大学教授 竹内 実氏

唐詩と道心

大谷大学教授 平野 顕照氏

中国人の復讐観

大阪大学教授 日原 利国氏

密教の世界

高野山大学教授 松長 有慶氏

○懷徳堂記念扇子を調整。 昭和五十三年十月

「虚己以受人」

高瀬惺軒先生墨迹

(堂友会記事)

昭和五十二年十月二十日 懷徳第四十七号発行

十一月六日 近江路の草津及び其の附近の常善寺、金胎寺、大槻大社、大野神社、六角家の見学会をなす。御指導は宇野茂樹文学博士で参加二十三名。毎々乍ら一同満足して秋の一日

を楽しんだ。

昭和五十三年四月二十九日、福井県小浜市の明通寺・妙楽寺・多田寺・羽賀寺・若狭彦神社への一日見学会を催し、宇野茂樹先生の御懇切な御指導の下に極めて有益な見学会をなす。参加四十四名。

七月二十二日から二十三日にかけての一泊見学会をなす。

第一日は湖東の龍王寺、苗村神社、石塔寺、百済寺で、泊りは百済寺町の近江温泉で気持よく汗を流す。

第二日は金剛輪寺、押立神社、善明寺を拝観して非常に愉快で且つ有益、矢張講師は宇野茂樹先生である。参加者は二十名余。

八月二十一日から二十六日までの六夜、大阪市内の住友さんの茶隴山道場で、会長木村英一先生による第六回目の夏季古典講座としての論語の講義があり、今回で首尾良く全書を読了した。聴講者延べ約七十名余り、相変らずの行き届いたお話で御蘊蓄を傾けられての講義であった。最終日の茶話会の席上で来夏からの計画についてお話し合いをさせて頂いた事でした。

此の一ヶ年間に昨秋から今夏にかけて左の四名の方が物故せられました。謹んで哀悼の意を表します。岩淵賢治、熊谷悦雄、大路とし子、西田幾太郎（以上四名様敬称略）次に本会の為に多大の寄附を賜った方に対して謹んで厚くお礼を申し上げます。木村会長、同千万子、中川幸三、山口正男、沢美枝、斎藤フサ子（以上六名様敬称略）

新入会の方 木村千万子、徳永寿美子、藤田節子、井村容子、

中川進、角井武三、藤原一郎、森凱春、尾嶋喜代蔵、野沢喜与蔵、早川愛寿、黒坂満、坂出祥伸、森岡善一、山口芳一、竹原実、稲田五月子、松本清子、遠藤桂子、浅井龍、加藤正夫、中橋久馬（以上二十二名様敬称略）

退会の方 久島勉、細川誠三（以上二名様敬称略）

住所不明の方 浜田満次郎、小林永典、小林和彦（以上三名様敬称略）

（中島記）